

今期の進め方について

日本全体の研究力発展を牽引する研究大学群の形成

(研究大学に対する組織支援策※の全体像)

※ 博士人材や研究者個人・チームに対する支援策は別途あり

□ 日本全体の大学の国際競争力を高めるには、総合振興パッケージと大学ファンドとを連動させ、個々の大学の持つ強みを引き上げると同時に、複数組織（領域）間の連携を促進し、人材の流動性が高いダイナミクスのある研究大学群（システム）を構築することが必要

個々の大学が持つ強み
(ピーク)を最大化



大学（領域）を超えた
連携を拡大・促進



国内外での
人材の流動性向上

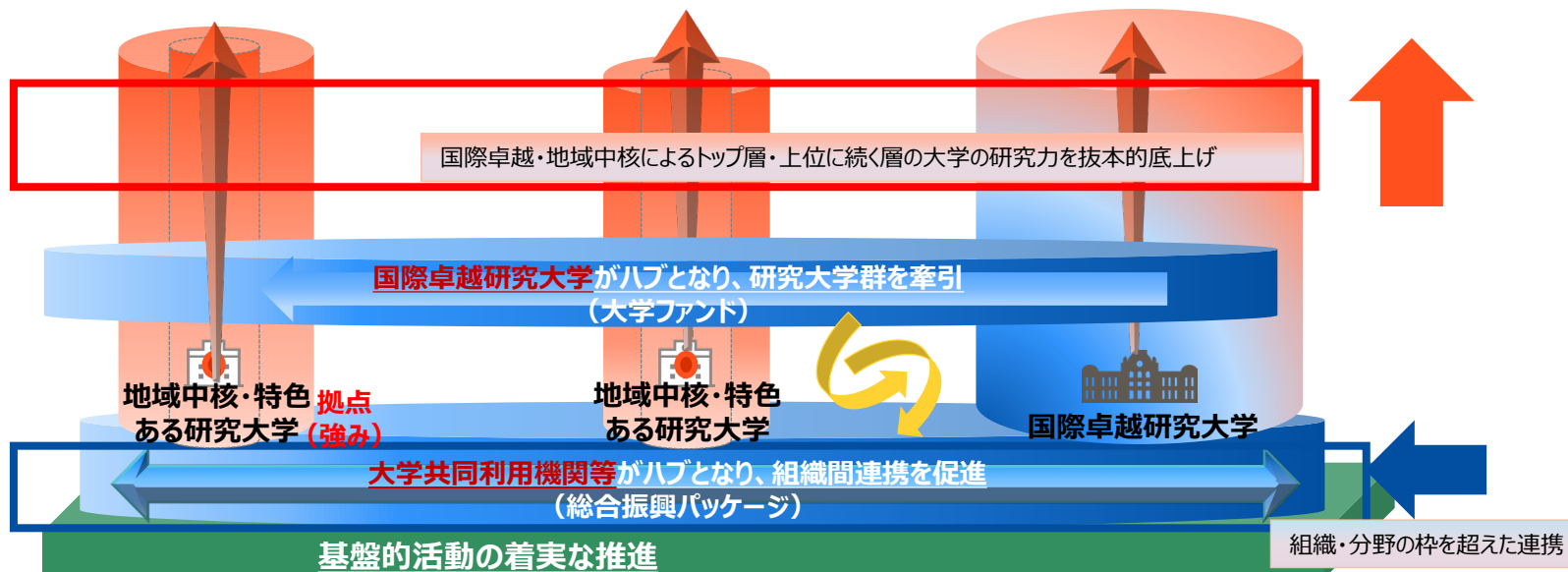
- ✓ 大学の特色化を目指した魅力ある拠点形成を支援（WPI拠点、共創の場拠点、国際的な学術研究を牽引する共同利用・共同研究拠点）
- ✓ 拠点が持つ強みをさらに伸ばすため、近接分野の拡充や、全学的な国際水準の研究環境（専門人材配置、機器共用体制等）の構築を支援

～総合振興パッケージ～

- ✓ 大学共同利用機関等が持つ、多様な分野の全国的な研究者ネットワークのハブ機能を拡張させ、全く新しい学際研究領域の開拓に資する複数大学の異分野の研究機関間の連携を支援

～大学ファンド～

- ✓ トップクラスの研究者の糾合により新たな研究領域を創出し、卓越かつ多様な学問分野におけるハブとしての国際卓越研究大学が共同研究などの連携を促進し、研究大学群全体を牽引



我が国の研究大学群の現状

- ① 国際卓越研究大学やJ-PEAKSの取組が具体的に進展し、第1～2Gの大学の中でこれらの研究大学のシステム改革に係る施策支援の対象とならない大学が顕在化してくる中で、これらの大学に所在する人材の生産性についても最大化するとともに、これらの大学に蓄積された研究設備・拠点のストックも最大限に活用していく必要がある。
- ② 我が国においては、第1～2Gに限らず裾野の広い大学において論文生産が行われるとともに、競争的研究費を獲得する意欲・能力ある研究者が在籍しており、これらの研究者全体の生産性を最大化していく必要がある。

		研究生産	研究人材		競争的研究費		研究設備・拠点		
		論文数シェア ※PY2017-2021の総論文数	博士課程 学生数 ※国立のみ	研究者数 ※国立のみ	科研費 基盤A～C 採択件数	創発 採択人数	中規模 研究設備 ※国立のみ ※2億円以上	WPI拠点	共同利用・ 共同研究拠 点
国際卓越 研究大学 (数校)	<第1G> 東北	24,957 (4%)	2,865 (5%)	3,184 (4%)	1,338 (2%)	49 (7%)	27 (12%)	2 (11%)	5 (5%)
国際卓越 申請大学 (8校)	<第1G> 東京、京都、大阪 <第2G> 九州、名古屋、科学、筑波、早稲田	183,893 (31%)	21,326 (36%)	17,330 (22%) ※科学大を除く	9,776 (18%)	333 (46%)	125 (57%)	10 (55%)	40 (41%)
J-PEAKS (25校)	<第2G> 北海道、千葉、慶應義塾、金沢、大阪公立、 神戸、岡山、広島 <第3G> 東京農工、信州、山形、横浜市立、新潟、 立命館、徳島、長崎、熊本 <第4G・その他> 東京藝術、OIST、弘前、長岡技科、山梨、 藤田医科、奈良先端、九州工業	138,058 (23%)	16,448 (28%)	20,741 (26%)	10,220 (19%)	160 (22%)	48 (22%)	4 (22%)	25 (26%)
その他	<第3G : 18校> 愛媛、鹿児島、岐阜、群馬、静岡、鳥取、富 山、三重、山口、京都府立医科、東京都立、 北里、近畿、自治医科、順天堂、東海、東京 女子医科、東京理科、日本	73,788 (12%)	4,248 (7%)	8,672 (11%)	5,803 (11%)	43 (6%)	2 (1%)	-	7 (7%)
	<第4G・その他文系大学>	163,836 (27%)	13,476 (23%)	29,178 (37%)	27,303 (50%)	139 (19%)	16 (7%)	2 (11%)	21 (21%)

大学規模別の状況を分析するため、2017～2021年の5年間の論文数シェア(日本の国公私立大学の全論文数(分数カウント法)に占めるシェア)に基づく大学グループ分類を用いた。論文数シェアが1%以上の大学のうち、シェアが特に大きい上位4大学は、第1グループに固定し、それ以外の大学を第2グループとした。論文数シェアが0.5%以上～1%未満の大学を第3グループ、0.05%以上～0.5%未満の大学を第4グループとした【文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学研究のベンチマーキング 2023より】

研究大学群への支援の在り方 検討スケジュール（R7.6）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度以降～
研究大学政策	計画イノバ	[CSTI基本計画専門調査会] ※基本計画案、CSTI本会議答申・閣議決定		第7期科学技術・イノベーション基本計画	
	国際卓越研究大学	★ R6.12 1期認可	1期:東北大学(25年間)		
		★ R6.12 2期公募開始	★ R7.5 公募締切	★ 選定	2期: R7年度内に認定・認可予定
	地域中核・特色ある研究大学	1期:R6.3～R11.3(5年間支援) 12大学		★ 中間評価(R8年度)	
		★ R7.1 2期結果公表	2期:R7.4～R12.3(5年間支援) 13大学		★ 中間評価(R9年度)
	大学研究力強化部会	【国際卓越の認定・認可に係る法定意見聴取】		研究大学への支援の在り方に係る議論	
(参考) 国立大学 法人等	研究環境基盤部会	【組織・分野の枠を超えた研究ネットワークのハブとしての機能強化について】 共同利用・共同研究体制の機能強化方策に関する審議 (大学共同利用機関の検証等)		検証結果を踏まえ、在り方・機能強化策の検討・実施	
	中期目標期間	第4期(R4～9年度)			第5期(R10～15年度)

研究大学群への支援の在り方に係る検討課題（案）

国際卓越研究大学制度やJ-PEAKSによる研究大学支援が進展する中、我が国全体で多様で厚みのある研究大学群を形成し、研究力を最大化するため、どのような取組が必要か。

① 大学・領域・セクターを超えた連携の拡大、学術の多様性の確保

- ・ 基盤的経費と競争的研究費のベストミックス
- ・ 裾野の広い大学に所在する意欲・能力ある研究者への支援
- ・ 大学間連携、共同利用・共同研究体制（研究基盤・機器共用、大学共同利用機関、共同利用・共同研究拠点）

② 先端知を切り開く優秀な人材の集積・国際頭脳循環（In-and-Out）

- ・ 日本人研究者の育成と国際頭脳循環（博士支援、安定性と流動性、国際学術コミュニティ）
- ・ 世界トップクラスの研究者が集まる研究環境の実現

③ 世界最高水準の研究大学の実現

- ・ 世界と伍する要件（研究力、事業成長、財務基盤、ガバナンス、モニタリング・マイルストーン評価）
- ・ 研究大学に必要なシステム改革の波及（研究人材、研究支援人材、研究時間、ファシリティ、学際性、社会展開、事業・財務戦略、組織カルチャー、研究資金、ガバナンス、意欲ある大学への支援の在り方、成長分野の人材育成機能）
- ・ 多様な大学機能を担う人材の育成（研究者、経営、研究マネジメント・URA、技術者、事務職員、産連、財務等）
- ・ 規制緩和
- ・ 研究力の可視化（研究成果の質と影響力、国際的な研究連携・ネットワーク形成度、研究資金の獲得力、博士課程人材の質と排出力、産業界との接続性等）

④ 地域中核・特色ある研究大学の振興

- ・ 大学ごとのビジョンに応じて、各大学の機能（① 強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、② 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、③ 地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能）を強化するための継続的・安定的な支援

今後の開催スケジュールについて（予定）

令和7年6月18日（水） 第1回 大学研究力強化部会

- 今期の進め方について
- 国際卓越研究大学の申請状況について
- 検討課題に関するヒアリング
 - 「①大学・領域・セクターを超えた連携の拡大、学術の多様性の確保」について（研究環境基盤部会）
 - 「②先端知を切り開く優秀な人材の集積・国際頭脳循環（In-and-Out）」について（関谷委員）

令和7年秋 第2回 大学研究力強化部会

- 検討課題に関するヒアリング
 - 「③世界最高水準の研究大学の実現」について
 - 「④地域中核・特色ある研究大学の振興」について
- その他、第1回での委員意見を踏まえ必要な有識者からヒアリング
- 研究大学への支援の在り方について（素案）

令和7年冬 第3回 大学研究力強化部会

- 研究大学への支援の在り方について（論点整理）

令和7年冬以降 第4回 大学研究力強化部会

- 国際卓越研究大学の認定に係る法定意見聴取

令和7年冬以降 第5回 大学研究力強化部会

- 国際卓越研究大学の体制強化計画の認可に係る法定意見聴取

令和8年度以降 大学研究力強化部会

- 「研究大学への支援の在り方について（論点整理）」を踏まえ継続して議論